

たまには肩のこらない内容のコラムを書こうと思います。先日、全国離島振興協議会の会合があり、八丈島を訪ねる機会がありました。

昔から「島も通わぬ八丈島」と呼ばれ、絶海の孤島として有名です。ひょうたんの形をした島で、「ひょうこりひょうたん島」のモデルになったと聞きました。島の真ん中のくびれているところが平坦地で、そこに街や飛行場があり、その両側に高い山がそびえています。西側の山が高さ854mの八丈富士、東側の山が高さ701mの三原山で、ともに火山です。ひょうたんを半分だけ水の中へ沈めた状態を想像していただくと、この島のイメージになると思います。

関ヶ原の戦いに敗れた豊臣五大老の一人、宇喜多秀家がこの島に流されたことは有名な話で、その妻豪姫と共に大きな石像となつて、今も八丈島に鎮座しています。

昔、罪人がお白洲で島流しの罰を申し渡される時、流される先が「佐渡島」と言われると非常に落胆し、「八丈島」であるとほっとしたと言われています。佐渡島では、苦しい金鉱での重労働が待っていました。一方、八丈島では「自分勝手に生きよ」ということで、自由に捨て置かれたという事です。気候が温暖で、自然の恵みも豊かで、島流しにあった人が喜んだ気持ちもわかるような気がします。

わたしたちが八丈島に到着した日の夜、島在住の女性3



木田市長の

ど〜んと

真珠のように輝く
まちづくりのために

コミュニケーション

vol.57

絶海の孤島、八丈島

人が待つていてくれました。そのうち二人は母と娘で、鳥羽の相差町から嫁いだ人の娘と孫にあたる人達でした。八丈島のとなりの青ヶ島村の村長さんが、鳥羽の市長が来るということ、わざわざ連絡をとつてくださつて、待つてくれたというわけです。

海女の仕事で伊豆諸島へ行き、そこで現地の男性と結婚することになった人がかなりの数あつたようです。娘さんの方は「ミス八丈」に選ばれたということでした。ふるさとが同じ鳥羽ということで、大変打ち解け、なごやかで楽しい一夜となりました。

孤島ではありませんが「住めば都」で、とても良い島であるという印象でした。

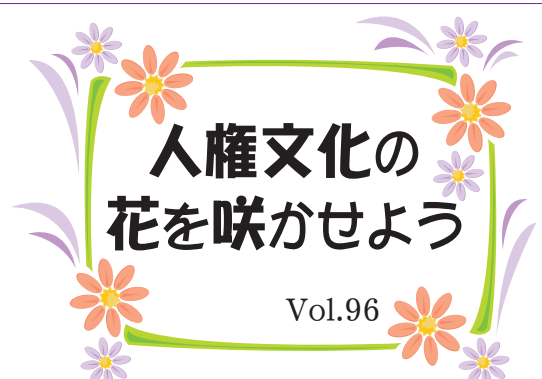
島の中をめぐる、ほとんどゴミが落ちていないことに気付きます。鳥羽のように環境パトロールで、拾つて回っているわけではありません。きれいなところなので、みんなゴミを捨てる気にならないかもしれません。

南のきれいな島には、今日もきれいな波が打ち寄せていることでしょう。

曇っていませんか
〜人権連続講座にて〜

先日、第1回鳥羽市人権連続講座が、鳥羽商工会議所かもめホールで行われました。講師の野口克海さんは、非営利組織「子ども教育広場」の代表や大阪教育大学の監事として活躍をなさっているかたです。

講座は、教育者の視点だけではなく、さまざまな実体験や失敗談をもとにお話をしていただきました。「人権」についての考え方は、時代、社会、地域、文化によってたえず変化を続けています。講演会を



人権文化の
花を咲かせよう

Vol.96

開催すると、「また人権の話か、差別はしてはいけない事は聞かなくてもわかつている」とみなさんは思っています。人権感覚はたえず磨かれないと曇ってしまうのです。こどもは正直で感性が敏感です。こちらからこどもを好きになつたらこどもは、ついてきてくれるなど、日々の生活の中で、常に何かを感じ取つていく、感性豊かな先生のお話は、興味深く、また、育児や教育のあり方について気付かせてくれるお話でした。

講座後のアンケートには、さまざまな感想やご意見を頂きました。「わかりやすい」「聞きやすい」「おもしろい」など、人権を難しく考えるのではなく、身近なものとしてお話が聞けたと思います。

これから連続講座や、講演会を開催しますので、みなさんと一緒に人権感覚を磨いていきたいと思ひます。

最後に今後取り上げて欲しい内容についてリクエストが多かったものは、インターネットによる人権侵害、こどもの人権などがありました。今後の参考とさせていただきます。